

ひらつか元気地域づくり事例集

Vol.2

平成29年(2017)7月



 特定非営利活動法人
湘南NPOサポートセンター

地域づくりは地域によって さまざまな取り組みがあります。 それぞれの事例を調査し、大切なポイントをまとめました。

平塚市では、たくさんの市民・市民活動団体、そして自治会をはじめとする地域活動団体が、住み良いまちづくりのために、さまざまな分野の活動をしています。

それらの活動が始まる理由として、必ずそこに地域の課題と社会背景が存在し、一人ひとりの参加のきっかけがあります。地域の課題を何とか解決したいと立ち上がる人、一緒にやろうと声掛けする人、想いを共有する仲間、そこに住んでいるという理由だけで活動することも、もちろんあります。

しかし、活動を継続するには、いろいろな資源（リソース）が必要です。それは人やモノや資金であったり、情報であったり、他団体との連携や協働、そして制度を活用する、ということも含まれます。

この事例集は、地域づくりを進める上で、また地域づくりのコーディネーターとして活動する上で必要な資源（リソース）を学んでいただくために作成しました。平塚市内の主だった活動を詳しく調査し、活動のきっかけ、経緯、人や組織の連携・協働、制度の活用などを一枚のシートにまとめています。この事例集からそれぞれの団体の活動の動きを読み取っていただき、今後の地域づくりに役立てていただけたら幸いです。

事例集発行に際し、インタビューや調査にご協力くださった各団体の皆様には、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

※ひらつか地域元気づくり事例集 Vol.1：平成 27 年 7 月に 8 事例を紹介、発行しました。

ひらつか地域元気づくり事例集 Vol.2 の見方

- 事例は 7 つの活動を以下の 3 つに分類しています。
 - ①環境保全&まちづくり活動
 - ②自治会などを含む地域の活動
 - ③テーマ型市民活動
- 横軸に年次、縦軸に活動のきっかけ・狙い、取り組みの内容、活動組織・活動のポイント、活用制度、表彰などを記載しています。
- 横軸と縦軸を合わせ見ることで、活動がどのような変化を遂げてきたかをご覧ください。
- 活動が拡大・縮小する、或いは組織が拡大・縮小する、などその時々において変化しています。そのきっかけとなる社会の変化や組織の有りよう、制度の活用、各種団体間の連携や協働がどのように進められてきたかを読み取ってください。



目次

環境保全&まちづくり活動

1. 平塚をみかく会 4

自治会などを含む地域の活動

2. 土屋菊づくり愛好会 土屋ざる菊愛好会 6
3. 豊田地区みんなのサロン 8

テーマ型市民活動

4. 平塚地区BBS会 10
5. NPO成年後見湘南 12
6. 女性防災クラブ平塚パワーズ 14
7. 平塚パトロール 16

事例集 Vol.1 で紹介した取り組み 18

奥付 19

各団体の活動地域

1. 平塚をみかく会
平塚市内・市外

4. 平塚地区BBS会
平塚市内・市外

7. 平塚パトロール
平塚市内

5. NPO成年後見湘南
平塚市内・市外

6. 女性防災クラブ平塚パワーズ
平塚市内・市外

3. 豊田地区みんなのサロン



1. 平塚をみがく会

子どもたちに安全な街を

【活動のきっかけ】

21世紀を迎えたころ、平塚の街角の落書きや不法看板に多くの市民は不快感や恐怖感を感じていました。

そのような中、一人の住民がこれではいけないと気づき行動に移しました。

【活動開始】

きれいな平塚を取り戻したいと、平成14年(2002年)3月「平塚をみがく会」設立。(市民、商店街、商工会議所、市議会議員、平塚市役所など参加)

協力・支援：関西ペイント、平塚物産、田中紙店、平塚理容組合、横浜油脂、平塚信用金庫、スターモール商店街、パールロード商店街、駅前商店街

【割窓理論】

1枚の割れた窓ガラスをそのままにしておくと、やがて街全体が荒れて犯罪が増える。だからたった1枚のガラスでも割れたらすぐに修繕しよう。

平塚に1つでも落書きをそのままにしておいたら、街全体が落書きで埋められてしまう。だから1つの落書きでも書かれたら、すぐ消そうと活動を始める。

【企業との協働】

平塚に工場がある関西ペイント(平塚事業所、開発センター)の方々は、会の活動にメンバーとして参画、塗料の提供、新しい「水溶性落書き除去剤開発」など、多くの取り組みで協働しています。

岡崎地下道の「岡崎の四季」壁画制作7年の活動

壁画を描こう平成21年(2009年)～平成27年(2015年)

この地下道は大住中学校への通学路で、落書きだらけで暗くて怖い、壁画でもあつたら良いのに。そんな中学生からの声に応えようと、地域を挙げて“壁画制作”を始めました。

自治会、町内福祉村おかげさ鈴の里、地域住民、保育園児、幼稚園児、岡崎小学校、大住中学校、市役所、関西ペイントなど多くの方々の協力で7年間13回にわたる活動によって200m地下道に壁画が完成しました。楽しく通学することができます。



壁画作成時に使われた塗料類



街角のシャッターに描かれた落書き



交通標識の落書きを除去



落書きをアートに塗り替え



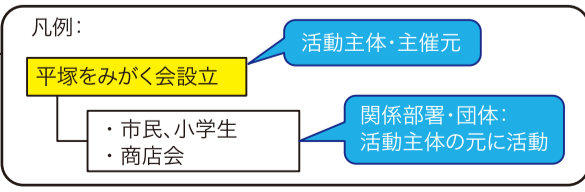
平塚らしいモチーフで制作



博物館裏の工場の塀に描かれた中学生の作品

平塚をみがく会

年次	H14(2002)	H16(2004)	H18(2006)	H20(2008)	H22(2010)	H24(2012)	H26(2014)	H28(2016)
狙い	街中にあふれる落書き 誰も消そうとしない	落書きを消したい	落書きをさせない	住民、子どもたちが自ら行動/景観まちづくり意識の醸成				
取組フェーズ	落書き消しと貼り紙はがし活動 塗料メーカーが専用溶剤を開発		落書き再発防止の絵画制作	自治会と協力した落書き消し・絵画制作				
主な活動	平塚をみがく会設立(H14) 中心商店街の落書き消し&貼り紙剥がし、絵画の制作(H14～) 平塚博物館裏の工場の塀に壁画制作(H15～)		城所「地下道美術館」絵画制作【自治会との協働】(H19～20)	岡崎地下道に「岡崎の四季」壁画制作【自治会との協働】(H21～27) 寺田縄花菜ガーデン前の地下道絵画制作【自治会との協働】(H22) 松原地区で絵画制作【自治会との協働】(H24)				
活動組織・活動ポイント	<p>平塚をみがく会設立(H14)</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民、小学生 関西ペイント 市議会議員 商店会 商工会議所青年部 平塚市役所 <p>合計21名参加し発足</p> <p>ユースボランティアと中心商店街、海岸公園のトイレ、プール横の備品倉庫などの落書き退治</p>	<p>平塚をみがく会(中心商店街での活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> 江陽中学校 関西ペイント 中心商店街 厚木青年会議所など延べ132名 	<p>ポイント: 駅周辺や中心市街地で良好な景観を形成することにより、人びとの景観(落書き)に対する意識を変革、醸成</p>	<p>岡崎地区町内福祉村「おかげさ鈴の里」 岡崎地区自治会連絡協議会 (岡崎地下道「岡崎の四季」壁画制作)</p> <ul style="list-style-type: none"> 平塚をみがく会 関西ペイント 平塚市土木課 地域住民 地元小中学校 地元保育園・幼稚園 <p>*岡崎地下道「岡崎の四季」の活動はP4に記載</p>	<p>平塚をみがく会(平塚市博物館裏壁画制作)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地元中学校美術部・イラスト部など(11校) ユースボランティア <p>ポイント: 将来の景観まちづくりに向けて・子どもたちの景観への意識を育む・楽しみながら参加できる取組みの実施</p>	<p>寺田縄自治会 平塚をみがく会 (花菜ガーデン前地下道絵画制作)</p> <ul style="list-style-type: none"> 金田小学校 金旭中学校 福祉村の皆さんなど延べ約200名 		
表彰	日本標準社出版の道徳副読本「みんなで考える道徳」に活動が紹介される(H17) 神奈川県環境保全功労者・工業保安功労者 美化運動功労賞受賞(H18) 日本塗料工業会「グッド・ペインティング・カラー表彰」受賞(H19) 国土交通省景観まちづくり読本に掲載される(H20) 日本青年会議所神奈川ブロック協議会より かながわ力大賞2009 特別賞受賞(H21)							
資金調達	神奈川ゆめコープ助成金 30万円(H14)	ひらつか市民活動ファンド 22万円(H16)	松下電器ボランティア市民活動支援金 9.1万円(H17)	ひらつか市民活動ファンド 6万円(H19)				



2. 土屋菊づくり愛好会 土屋ざる菊愛好会

菊づくりが地域を愛する活動に

土屋地区は平塚市の最西部で、秦野市や中井町などに接し、東西約3.6km、南北約3.2kmで市面積の約10分の1を占め、4自治会（上惣領自治会、惣領分自治会、大庶子分自治会、大寺分自治会）で構成されています。標高80m～150m程の丘陵に挟まれた谷間に、座禅川、三笠川が流れ金目川に注ぎます。土屋一族の墓、神社など古い歴史を持つ数々の遺跡があります。

地域は土屋公民館と、市民、小学校、中学校、大学などつながり各種の活動に取り組みます。菊づくりを愛する方々が昭和54年に同好会活動を発足し、昭和60年から土屋公民館・土屋菊づくり愛好会で、土屋小学校児童たちへ菊づくり指導を始め30数年継続しています。

【菊づくりの流れ】



土屋菊づくり愛好会 土屋ざる菊愛好会

年次	S54(1979)	S60(1985)	H6(1994)	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)
狙い	菊づくりによる地域・住民同士の交流		菊づくりの定着化と活動範囲の拡大		菊づくりの新たな発展(展開)		
取組	土屋菊づくり愛好会発足(S54)	菊花展に出展(毎年11月開催、土屋公民館) 土屋小学校の児童に菊づくり指導(土屋公民館の児童・生徒地域参加事業「菊づくり」に認定)		土屋ざる菊愛好会発足(H27) ざる菊展(毎年11月開催)			
活動組織・活動ポイント	<p>ポイント:</p> <ul style="list-style-type: none"> ①差し芽から展示までの一貫指導 ②学年別役割分担による丁寧な指導 ③毎年受け継がれて実施(30年継続中) ④土屋公民館の児童・生徒地域参加事業「菊づくり」として認定され活動 <p>土屋地区の地域づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館を中心に地域住民・小中学校・神奈川大学との連携・協働によって様々な取り組みを展開 ・子どもや学生が関わることで地域への愛着も増している <p>活動組織・活動ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> 土屋公民館(中心) 土屋菊づくり愛好会 土屋ざる菊愛好会 土屋小学校 土屋公民館 神奈川大学 地域住民 土屋小学校 土沢中学校 <p>土屋小の児童に菊を育てる指導(S60～)</p> <ul style="list-style-type: none"> 土屋菊づくり愛好会 土屋小学校 土屋公民館 <p>土屋小学校の総合学習「菊づくりに挑戦しよう!」で取り組み(H26～)</p> <ul style="list-style-type: none"> 土屋菊づくり愛好会 土屋小学校 土屋公民館 <p>土屋ざる菊園開園(H27)</p> <ul style="list-style-type: none"> 土屋ざる菊愛好会 土屋小学校 土屋公民館 <p>ポイント:</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ざる菊で土屋を名所にしたい思い ②地域地権者からの土地活用の提案 ③プロジェクト(共催)体制で推進 ④看板制作によるPRとマスコミに取り上げられたことによる知名度アップ →来場者多数・臨時駐車場、案内看板の設置、来場者の誘導 <p>土屋小学校児童の神奈川大学での「一日大学生」(H6～)</p> <ul style="list-style-type: none"> 神奈川大学 土屋小学校 土屋公民館 <p>ポイント:</p> <ul style="list-style-type: none"> ①神奈川大学と地域の相互理解(大学は地域貢献、地域との交流活動の一環として実施) ②大学生の積極的姿勢と地域への入り込み ③講義、実験、スポーツそしてランチを大学で体験 <p>土沢中学校生徒の神奈川大学での「一日大学生」(H23～)</p> <ul style="list-style-type: none"> 神奈川大学 土沢中学校 土屋公民館 <p>地域と神奈川大学生との「連暮」(H26～)</p> <ul style="list-style-type: none"> 神奈川大学 土屋公民館 地域の住民 <p>神奈川大学生が土屋ざる菊園に「HOLYWOOD(聖なる森)」看板設置(H28)</p> <ul style="list-style-type: none"> 神奈川大学 地域の住民 <p>ポイント:</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学生の地域愛と豊かな発想「豊かな自然がある土屋地域は平塚の誇りであり財産」 ②地域住民の協力 *「HOLYWOOD」の由来…ハリウッドならぬホリーとして「聖なる森」と土屋をイメージ <p>看板は設置した大学生の卒業までの1年間掲出される</p>						
特記事項	情報発信：地域情報局「ふるさと土屋」			ひらつか市民活動ファンド助成金10万円(H27)		土屋ざる菊園：毎日新聞、神奈川新聞タウンニュース 等で紹介される(H27、28)	

3. 豊田地区みんなのサロン

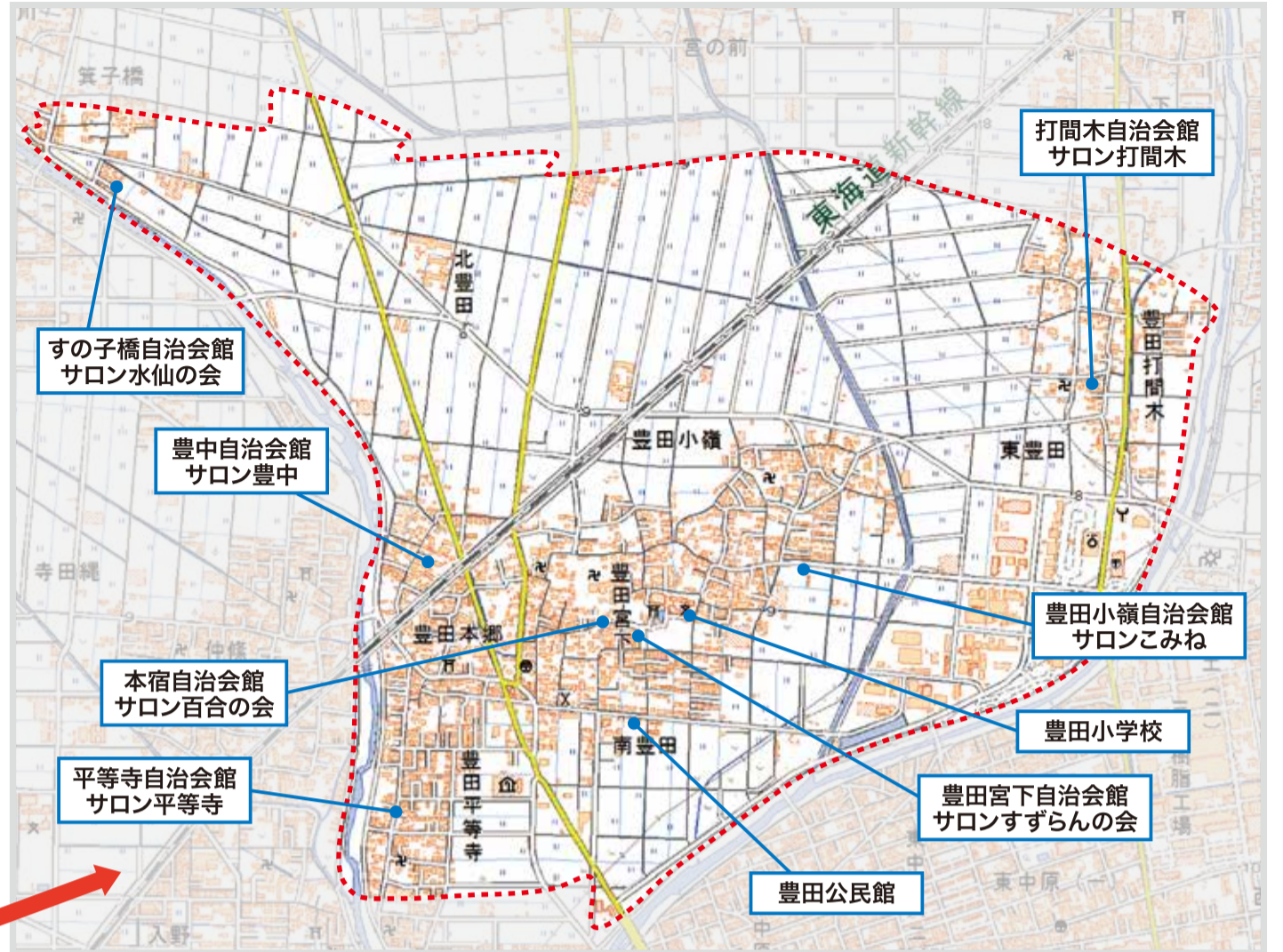
横に紡ごうサロンの糸 次代に繋ごうサロンの心

豊田地区は東を淀田川、西を鈴川と接し、自然堤防が大地となった肥沃な土地で、米作りを中心とした田園が開けた自然豊かな地域です。

平坦で広大な地域のため、「すの子橋」から豊田公民館へは約2kmもの移動が必要となります。そのため自治会が保有する自治会館を活用したサロンで、地域の方々が行き易くした交流の場を作りました。

サロンは、参加者の中からリーダーを選び運営を担っています。地区社協、民生委員は事務局として支援します。

平塚市で整備を進めている町内福祉村は、開設に向けて検討中で平成30年度の設置が予定されています。



地図の出力：国土地理院電子国土 Web



豊田地区の人口など（平成29年5月1日現在）
人口 5272人、2067世帯
豊田小学校の児童数 12学級 252人



歌って、笑って、元気に



人気の楽器コカリナの演奏会

豊田地区みんなのサロン

年次	H23(2011)以前	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)
狙い	公民館まで遠い ⇒利用しづらい	身近な交流の場を作る		地域の人びとが顔見知り・懇意になる			地域内・間のつながりを増やす	
取組フェーズ		サロン開設		各サロン毎に定期的活動実施			活動の展開・拡大	
サロン開設と活動	サロン開設前 ・すの子橋自治会「水仙の会」(お茶会)活動 ・自治会館建てかえをきっかけに「サロン」活動について相談始まる	◆すの子橋自治会 サロン水仙の会(H24.1) ◆宮下自治会 サロンすずらの会(H24.6) ◆小嶺橋自治会 サロンこみね(H24.6) ◆本宿自治会 サロン百合の会(H24.6)	◆平等寺自治会 サロン平等寺(H25.1) ◆打間木自治会 サロン打間木(H25.1)	◆豊中自治会 サロン豊中(H26.4)	サロン活動：各自治会館で自主的に運営 各サロンは定期的に1回/月活動を実施 <div style="float: right; border: 1px solid black; padding: 5px;"> 福祉村(H30開設予定) 豊寿会(3) サロン(7) ボランティア </div>			
全体会議と交流会	＊全体会議、交流会を通じて、サロン同士、他地域の活動状況を把握し、参考とする	みんなのサロン全体会議開催(H24.12) 講演「地域福祉の中での「みんなのサロンの役割」		金目地区・豊田地区サロン交流会開催(H26.7)		みんなのサロン全体会議開催(H27.12) 講演「地域福祉のあり方」～今、求められている活動とは～ 社協・サロン全体会議開催(H28.12)		
取組みポイント	サロン開設の課題 ・人が集まるか ・何をするか ・費用をどうするか ・既存の老人会との調整	開設に当たってのポイント ・参加者が行きやすい自治会館を利用 ・参加者が楽しく過ごせ、健康向上につながる行事 ・高齢者、身障者などの状況把握ができる仕組み作り ・なるべく多くの人に参加して貰う呼びかけ、運営			めざす姿(目標) ・地域は横でつながる(横社会) ・地域の財産である自治会館を拠点とし、地域人材を活用して地域の横のつながりを構築(サロンの講師になれる地域人材を発掘し、サロンを巡回する)			
	対応策 ①行政、関係部署との連携 ・平塚市高齢福祉課 ・わかば健康クラブ ・高齢者よるず相談センター ②体制作りと役割明確化 ・本部・豊田地区社協が中心 地区の社協委員と民生委員2名位 ・サロンを運営するリーダー、副リーダー ・参加者から選ぶ 原則1回/月の実施内容を計画 ・社協委員、民生委員 ・事務局として市社協、平塚市福祉部門との橋渡し ③収入(予算) ・豊田社協、自治会、参加者から	サロン水仙の会 (健康体操)	サロンこみね (自治会長落語)	サロンすずらの会 (ラジオ体操)	サロン百合の会 (消費者講座)	サロン平等寺 (介護予防運動)	サロン打間木の会 (おしゃべり会)	サロン豊中 (もしもし亀よ)
年間参加人数・年齢層		603人(H24) 60～90才台 (中心層75～85才)	1071人(H25)	1257人(H26)		1512人(H28)		75才以上高齢者の増加を図る
広報活動	社協だより(年4回)、公民館だより、広報版掲示、参加者の声かけ				ホームページ：歴史とロマンのふるさと ひらつか豊田			

4. 平塚地区 BBS 会

身近で信頼できる兄、姉として

BBS (Big Brothers and Sisters Movement) は、その名のとおり、少年少女たちに、同世代の、いわば兄や姉のような存在として、一緒に悩み、一緒に学び、一緒に楽しむ全国的なボランティア活動です。その名は、今から約100年前にアメリカで始まった、Big Brothers Movement や Big Sisters Movement にちなんで名付けられました。平塚地区BBS会は神奈川大学生を中心に、子どもたちと勉強、スポーツ、遊び、そしてイベント等を通じて地域に密着した活動をしています。



勉強、遊び、おやつと一緒に
【吉沢寺子屋】



集団生活を通して生きる力を身に付ける
【吉沢に泊まるう】



共同作業、野外活動を体験する
【びわっ子クラブ】



日本BBS連盟

組織：日本BBS連盟の元に、8つの地方BBS連盟、50の都道府県連盟、約500の地区BBS会があり、平塚地区BBS会は、地区BBS会の一つです。昭和22年に発足した「京都少年保護学生連盟」が日本のBBS運動のスタートと言われています。活動：保護観察所、家庭裁判所や少年院、学校から幼稚園まで、また地域の子どもを集めて行う活動など、場所も形態も対象となる子どもたちも様々となっています。



平塚地区 BBS 会

年次	S25(1950)	H10(1998)	H15(2003)	H20(2008)	H25(2013)	H30(2018)
狙い	非行少年や社会不適応少年のいない、犯罪や非行のない明るい社会の実現	非行少年の兄や姉のような存在として、少年たちの更生をサポートする	友愛とボランティア精神で少年と同じ目の高さで共に考え学びあう	友愛とボランティア精神で少年と同じ目の高さで共に考え学びあう	友愛とボランティア精神で少年と同じ目の高さで共に考え学びあう	地域の少年少女のよき兄や姉、そしてともだちになる
取組フェーズ		組織立上げ(再発足)	施設訪問活動開始	自主活動への取組み	自主活動への取組み	支援活動の広範化
取組活動・行事	平塚地区BBS会設立(S25) 右記以外で毎年実施している活動 ・七夕祭り手伝い、パトロール ・防犯パトロール ・親子であそぼうフェスティバル ・平塚祭(学園祭)・PRと収入源	平塚地区BBS会再発足(H15) 社会を明るくする運動/ともだち活動(H15~)	児童自立支援施設[2地区]訪問(H17~:1回/月) *スポーツ、室内ゲーム、収穫祭で交流	ボラフェスタ(H20~26) *献血推進、ボランティア団体交流	吉沢寺子屋(H23~:2回/月実施) *学習支援・運動・おやつで交流 びわっ子クラブ(H24~:9回/年実施) *自然・ものづくり体験、季節行事支援	吉沢に泊まるう!(H26) *1泊2日での体験学習 ぶちひらつか(H25年~:1回/年) *小学生の“街の市民”体験支援
活動組織 活動ポイント	平塚地区BBS会設立	平塚地区BBS会(再発足)	平塚地区BBS会【児童自立支援施設訪問】 茅ヶ崎、小田原他BBS会 ポイント: ①顔を覚えてもらう ②子どもの個性を見極める ③良いプレーができた時には一緒に喜ぶ ④子どもたちの変化に気づく ⑤積極的に話し掛ける	平塚地区BBS会【社会を明るくする運動】 平塚地区保護司会 平塚地区更生保護女性会 平塚市青少年課 ポイント: 幅広く、効果がある啓発活動 ・湘南ベルマーレ試合会場 ・駅前の街頭キャンペーン	吉沢地区福祉村【吉沢寺子屋】 平塚地区BBS会 自治会・住民 吉沢公民館 湘南NPOSC ポイント: ①子どもたちのコミュニケーション取り方 ②あきさせない工夫 ③注意の仕方(特に言葉使い) ④学生と子どもの参加人数のバランス	平塚市青少年課【びわっ子クラブ】 びわ青少年の家 平塚地区BBS会 ジュニアリーダーズクラブ 地域の人々 子どもたちの家族 ポイント: ①子どもたちを放っておかない ②ケガをしないように注意する ③子ども同士で交流できるようにする
予算		収入 会費：継続会員、新規会員 助成金：平塚地区保護司会、平塚地区更生保護女性会、湘南NPOSC、神奈川県BBS連盟、他より 事業費：平塚祭(学園祭収入)			支出：事業費、派遣費、広報費、事務費等(収入に応じて対処) *吉沢寺子屋、びわっ子クラブ、ぶちひらつか運営費:主催元が負担	
特記事項		平塚地区BBS会再発足 BBS会の活動に関心があった神奈川大生が行動(2人から出発)	平塚地区BBS会員 ・大部分が神奈川大生(神奈川大の公認サークル) ・社会人は神奈川大OB、OG		吉沢寺子屋(自主事業として取組み) ・平塚市地域自治推進モデル事業(H22) ・「吉沢寺子屋」(子どもたちの学びと遊びの場)の活動開始(H23) ・福祉村・事務局、BBS会・企画・運営・実働、湘南NPOSC・運営のサポート	

5. 特定非営利活動法人 NPO成年後見湘南

引き継ぎます、家族の心で 見守ります、本人の未来を

知的障がい者の親族にとって、親亡き後に本人の将来を誰に託すかは悩ましい問題で心配が付きません。

知的障がい者を深く理解し、本人の気持ちを汲み取り、その人生に寄り添っていくために、知的障がい者の親族が、NPO法人を立ち上げました。



NPO成年後見湘南は

- ・知的障がい者ご本人が親（親族）亡き後も安心して過ごしていけるように支援をしていきます。
- ・20年～30年と極めて長期にわたって活動を継続させていくことが必要なので、「法人」化しています。

後見担当者は

- ・後見人を引き受けるのは「法人」です。
- ・後見担当者は、法人スタッフの一人として業務を遂行します。



成年後見制度や障がい者の理解のための講演会開催

成年後見制度とは（概要）

認知症、知的障害、精神障害などによって物事を判断する能力が十分ではない方について、本人の権利を守る援助者（成年後見人等）を選ぶことで、本人を法的に支援する制度です。

受けられるサービス（一部）

「財産管理」

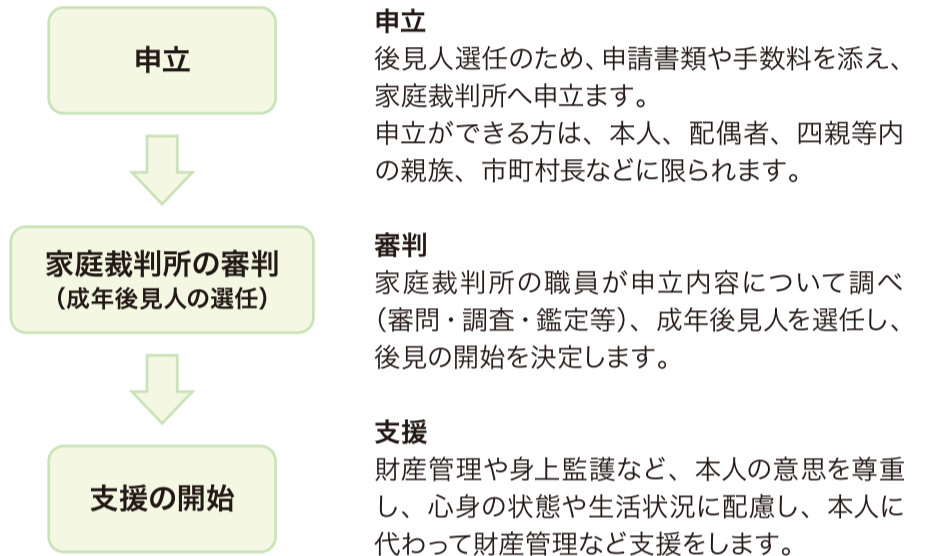
不動産などの管理・保存・処分、金融機関との取引、生活費の送金や年金や入院費などの入出金の管理。

「身上監護」

本人の住まいの契約締結、医療機関に関する各種手続きや医師からの説明の際の同席、障害福祉サービスの利用手続き、老人ホームなどの介護施設の各種手続き、介護サービスや施設のチェック、異議申し立てなど。

ただし、後見人は賃貸借契約の保証人、手術の同意などはできないとされています。また、毎日の買い物、掃除、食事の準備、身体介護などは行いません。

成年後見を開始するまでの一般的な手続きの流れ



特定非営利活動法人 NPO 成年後見湘南

年次	H11(1999)	H15(2003)	H20(2008)	H25(2013)	H29(2017)
狙い	知的障がい者の親亡き後の将来を支援したい				
国の取組	「成年後見制度」が制定される (H11)	「障がい者自立支援法」が制定される (H17)	改訂		「障がい者総合支援法」(障がい者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律)に改められる (H25)
平塚市の取組	「平塚市成年後見制度運営事業実施要項」に基づき市長申立を実施 (H13～)			「平塚市成年後見利用支援センター」開設 (H26)	
取組	成年後見制度勉強会を立ち上げ (H13)	NPO成年後見湘南設立 (H15)	横浜家庭裁判所より成年後見人に選任される (H17～)	事務所を平塚市代官町に移設 (H23)	
受任累計数	5件(H17) 5件(H18) 8件(H19) 10件(H20) 12件(H21) 12件(H22) 15件(H23) 16件(H24) 21件(H25) 24件(H26) 26件(H27) 26件(H28)				
活動	知的障がい者施設の利用者家族会の有志15名で勉強会を開始	平成16年度活動 ・相談申立支援 6回 ・講師派遣 4回 ・施設家族会、親の会などの来訪受け入れ 3回 平成17年度活動 ・相談申立支援 6回 ・講師派遣 1回 ・来訪受け入れ 4回 平成18年度活動 ・相談申立支援 7回 平成19年度活動 ・相談申立支援 15回 ・規格・手順書等の作成・改訂 平成20年度活動 ・相談申立支援 13回 ・規格・手順書等の作成	平成21年度活動 ・相談申立支援 7回 ・親の会などへ講師派遣 6回 ・規格・手順書等の作成・改訂 平成22年度活動 ・「神奈川県自閉症児者親の会」成年後見利用制度勉強会 ・「平塚市自閉症児者親の会」学習会などへ講師派遣 7回 ・東京大学主催「市民後見人養成講座」受講生実習受け入れ 10名 ・規格や手順書など作成 平成23年度活動 ・東大で「第1回市民後見人全国大会」で活動事例報告 ・かながわ法人後見連絡会に参加など 6回 ・規格や手順書など作成・改訂 平成24年度活動 ・障がい者団体(栃木や三重からも)への講師派遣や来訪受入 ・規格、手順書などの作成改訂	平成25年度活動 ・後見受任 21件 ・相談問合せ 10回 ・講師派遣 7回 ・「つばめノート」書き方講習会 3回 ・規格や手順書など作成・改訂 平成26年度活動 ・後見受任 25件 ・相談問合せ 8回 ・講師派遣 3回 平成27年度活動 ・後見受任 22件 ・相談問合せ 9回 ・講師派遣 1回	
助成金・行政との連携協力	 施設に入所されている方の外出支援を計画し、同行を行います。(墓参、家族訪問など)	平塚市公益信託助成金 34万円(H17)	 後見担当者として施設や病院へ訪問し面会をします。	県社協助成金 15万円(H23)	平塚市成年後見利用支援センター設置懇話会委員 平塚市成年後見利用支援あり方検討会委員 平塚市市民後見人養成講座に協力 平塚市社協法人後見実施検討委員会委員 平塚市成年後見利用支援センター運営協議会委員

6. 女性防災クラブ平塚パワーズ

地域防災力は女性パワーでアップ!

【平塚パワーズとは】

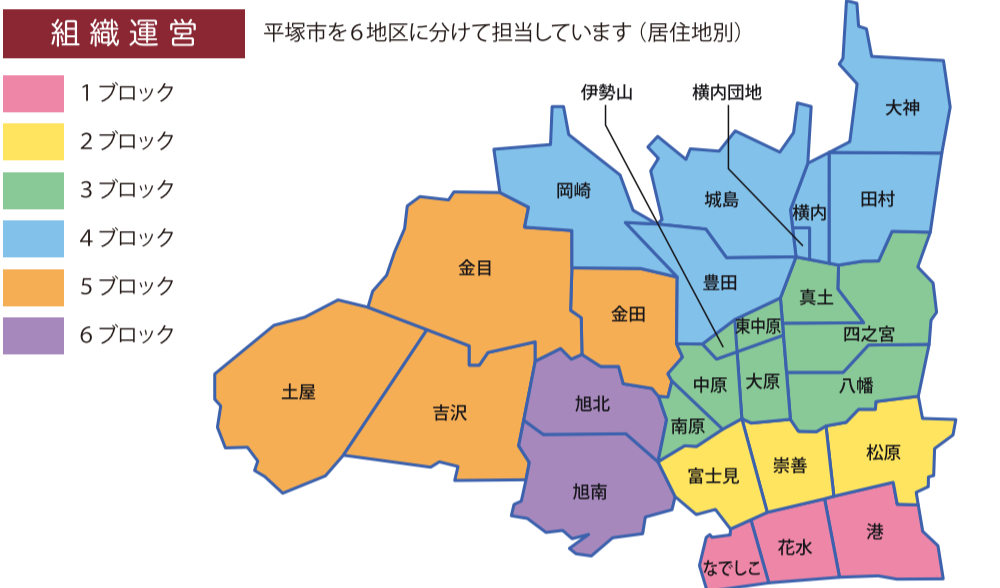
女性の視点に立って防災に関する知識、技術の向上を目的として結成されたボランティア団体です。

日頃は各地域の防災訓練や各種イベントへ参加し、身近な物で作る防災グッズの作り方の普及や応急手当などのさまざまな防災啓発活動を行っています。

平塚市内を6つのブロックに分けて活動し、会員数は40名(平成28年度)です。

【結成のきっかけ】

平成7年阪神淡路大震災を期に平塚市が防災講習会を開き、受講した30名が平成8年5月に団体を立ち上げました。



平塚市災害対策課共催事業



市民大学「3.11を忘れない」



帰宅困難者対策訓練

自治会防災・減災訓練



搬送法



段ボールトイレ作り

オープン講座&出張オープン講座



女性コミュニティー講座



非常食作り

女性防災クラブ平塚パワーズ

年次	H7(1995)	H10(1998)	H15(2003)	H20(2008)	H25(2013)	H30(2018)
発生震災	阪神淡路大震災(H7)		新潟県中越地震(H16)		東日本大震災(H23)	熊本地震(H28)
狙い	自分の身は自分で守る 大切な家族を守る 地域を守る	・災害時のリーダーとしての意識づけ(研修継続) ・災害時の初期対応(訓練継続) ・災害に強い安心・安全なまちづくり(啓発活動展開)		非常時を意識する 傷病者の身になる		女性目線の行動 家庭の中からの減災 パワーズアイテムの活用促進
取組フェーズ		訓練参加・基礎習得	啓発活動から教習活動へ	市役所、消防署と分離し活動		活動範囲の広範化・東日本大震災を教訓に活動
取組活動・行事	<p>◆平塚市災害対策課共催事業(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平塚市総合防災訓練(H8~) ・ひらつか消防展での啓発活動(H9~) ・平塚市自主防災総会訓練(H10~) ・10周年記念事業「みんなの防災展」(H17) <p>ボランティア団体「女性防災クラブ平塚パワーズ」立上げ(H8)</p> <p>自主訓練の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応急手当訓練 ・規律訓練 ・防災機材取扱訓練 ・軽可搬ポンプ操作訓練 ・屋内消火栓取扱訓練 ・ロープ結束訓練 ・炊き出し訓練 等 		<p>◆講演、交流会、オープン講座・出張オープン講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊橋市女性防火クラブ(H17) ・女性コミュニティー講座(H19~) ・大磯町、浦賀町、川崎市、臼杵市交流会(H24~) ・オープン講座(H26~) ・出張オープン講座 in新百合丘、開成町他(H27~) ・ワンポイント防災セミナー 東北大学(H23.3.6) ・熊本地震後方支援(H28.4.14) <p>◆子どもたち、先生、親への訓練・啓発活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津波対策避難所夜間運営訓練(H16) ・小、中学校防災教室(H17~) ・幼稚園、保育園活動(H18~) ・平塚市防災ジュニアスクール(H25~) <p>◆公民館事業、自治会、防災・減災訓練(H23~:20数回/年実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・減災講話、応急手当、非常食体験、防災頭巾、搬送法、段ボールトイレ等 ◆かながわコミュニティーカレッジ(H29.6) 		<p>◆平塚市災害対策課共催事業(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰宅困難者対策訓練(H24、H26、H28) ・ビッグレスキューかながわ(H25) ・平塚市津波避難訓練(H25、H27) ・市民大学「3.11を忘れない」(H26) <p>自主訓練の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AED操作・心肺蘇生法 ・J-DAG(Just Disaster Action Game) 	
参加まつり(啓発活動)		緑化まつり(H9~)	七夕まつり(H13~)	千人パレード(H15~) でてこいまつり(H15~)	ひらつな祭(H24~)	金田秋祭り(H25~) 公民館まつり(H28) 消防フェスティバル2012inひらつか(H24) 土屋りんどうまつり(H27)
活動組織・活動ポイント	<p>平塚市災害対策課【総合防災訓練・自主防災訓練】</p> <ul style="list-style-type: none"> 警察署・消防署 平塚市民病院 他 公益、一般社団法人 一般企業 自治連合会 小中高等学校 各種団体 他(平塚パワーズ) 	<p>ポイント:</p> <ol style="list-style-type: none"> ①訓練の実践 <ul style="list-style-type: none"> ・災害発生直後の応急復旧作業と災害支援活動 ・関係部署相互及び行政との連携と迅速で的確な対応 ②訓練を通じて、市民が防災に関する知識を深める <ul style="list-style-type: none"> ・当事者意識の醸成 ③訓練の振り返り 	<p>平塚パワーズ【講演、交流会、防災・減災訓練、啓発活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市外団体 公民館・自治会 小中高等学校 幼稚園、保育園 市内各種団体 他 <p>ポイント:</p> <ol style="list-style-type: none"> ①対象者にあった細やかなプログラム ②身近でも役に立つことを、分かり易く伝える ③実地体験する 	<p>湘南地域県政総合センター 平塚市【帰宅困難者対策訓練】</p> <ul style="list-style-type: none"> JR東日本(平塚駅) 湘南ステーションビル 神奈川中央交通 警察署・消防署 平塚パワーズ 関係機関、企業他 ※想定状況により年毎に変更あり <p>ポイント:</p> <ol style="list-style-type: none"> ①訓練の実践 <ul style="list-style-type: none"> ・駅構内対応、一時滞在施設への誘導、一時滞在施設の開設・運営 ・平塚市災害対策本部の情報伝達・収集 ②想定外事態の発生の把握と内容確認 ③訓練の振り返り 		
広報活動発行物		パワーズだより発行(H11~:1~2回/年発行) ナバサで防災(H17~:毎月第3水曜日)	「私たちのあゆみ」10周年記念誌発行(H18) 「大切な家族を守るために:防災知恵袋」発行(H19)	15周年記念誌発行(H23) ブログ開設(H26)	20周年記念誌発行(H28) TV放映(SCN、テレビ東京) 発行(H29)	防災・減災パワーズブック
表彰			日本消防協会賞受賞(H13) 第15回全国婦人消防操法大会優秀賞(H13)	防災功労者防災担当大臣表彰(H20) 第23回神奈川地域社会事業賞(H22)		神奈川県県民功労者賞(H24) 第11回茗溪賞顕賞(H24) 共同通信社 地域再生大賞「優秀賞」(H24)

7. 平塚パトロール

旅人のコートを脱がせたのは、北風ではなく太陽です。

【ホームレス（野宿者）支援・訪問活動】

「こんにちは。平塚パトロールです。お変わりありませんか？」
 「先月より顔色良くなったわね、よかった」
 こんな会話は活動当初から変わっていません。県内でも横浜、川崎に次いでホームレス（以下野宿者という）が多かった平塚市で平成13年（2001年）から市内を見回り、野宿者支援を行っています。安否確認。孤立させない。野宿者自身の意思を尊重して手助けをする。寒い時には毛布を配り、時には診療の勧めやこれからの自立への相談にのって来ました。その活動は行政との連携を強化する原動力となりました。陽の光が氷を溶かしていくように、地道に何度も訪問を重ねながら信頼関係を築き、固く閉ざした心の扉を開きそれに寄り添い手を差し伸べていく活動をしています。

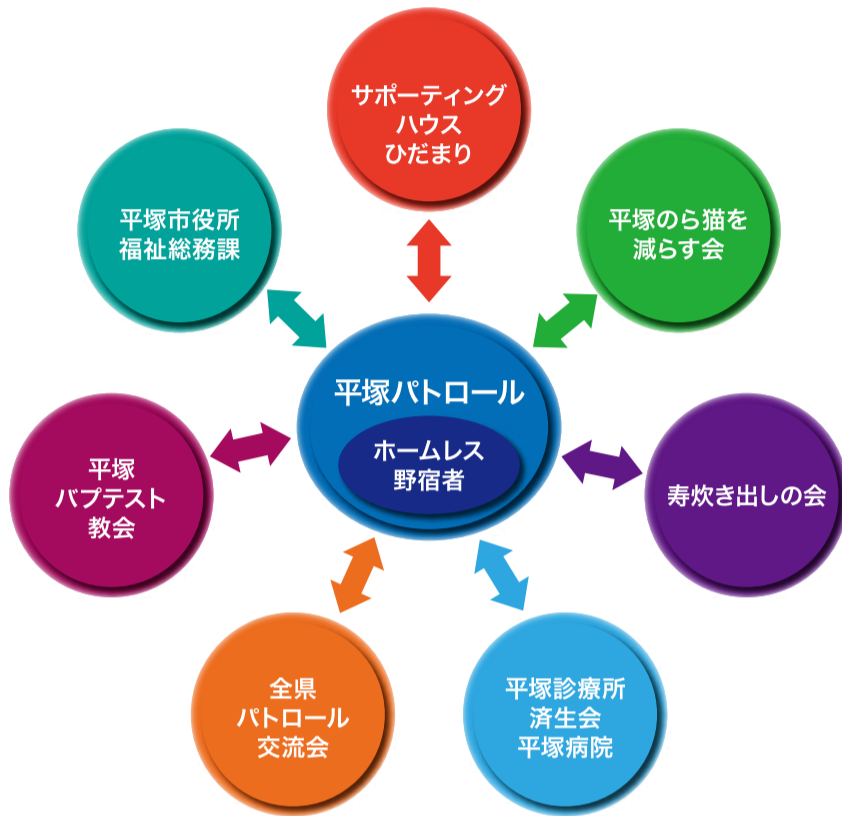
メッセージ

野宿者＝怖い、近寄りたくないというイメージが世間では持たれがちです。でも話をしてみると普通のおじさんでした。野宿者に対する社会の偏見が頑迷なものであるか気づかされました。昨今ではユースボランティアの中高生も参加してくれており、彼らの視線を通して我々も伝える側として気づかされることがあります。
 野宿者の差別・偏見を除去し人格的尊厳を回復できることを目指し地道に活動していきます。

具体的な活動内容

月2回定例で野宿者の寝所を訪問しています。

- ①安否・健康状態の確認・・・診療の勧め、診療所の紹介
- ②自立希望者への相談・・・生活保護申請の手助け
- ③野宿者の交流の場づくり・・・炊き出し、追悼集会
- ④行政との意見交換・・・「ホームレス自立支援懇話会」に参画
- ⑤理解を深める学習活動・・・講演会の開催、中高生への学習会
主に関連する団体、施設に支援されて活動しています。



活動のきっかけ

平成12年以前、既に横浜、川崎の都市部8都市11団体でパトロールが実施されていました。
 平成12年に実施された野宿者の生活実態調査において平塚市が横浜、川崎に次いで3番目に多く、横浜地区をパトロールしていた人たちが平塚もパトロールしようと立ち上がりました。初期は平塚以外の人たちでスタートしました。

団体の概要

代表を置かず自由で想いのある人たちが集まって活動する団体です。誰でも参加できます。
 行政との交渉や情報交換の場として「全県パトロール交流会」がありますが、これも代表もなく上部団体の位置づけでもありません。

平塚パトロール

年次	H13(2001)	H15(2003)	H18(2006)	H22(2010)	H23(2011)	H27(2015)	H30(2018)
狙い	野宿者の差別・偏見を除去し人格的尊厳の回復を目指す	定期的なパトロールで安否確認 野宿者との信頼関係の構築・行政との対話			人間の尊厳を守ることの大切さや 他を思いやる心を育てる	子どもの頃から 人間関係を培う	
取組活動	全県パトロール交流会 平塚パトロール開始 平塚市外の人たちでスタート (H13.4.7)	← 他地域とのパトロール団体との交流 平塚市民も参加 (H15.11)	市民活動センターに登録し ボランティアを募集 (H18.1)	訪問日、時間を定例化することで 野宿者が待っていただけるようになった	パトロールを平日と 日曜に変更 (H26.5~)	賛同者による子ども食堂を 開設(H28.1) 土曜日は次の日が休日のため行政や 病院など緊急に対応できないため平日に変更	
支援活動とポイント	他団体との連携が重要な位置を占める 平塚市外の人たち3~4名で 実施(土・日の月2回) 野宿者とのカレーパーティ開催 (8名参加) (H14.5) 「平塚バプテスト教会」で 仲間の集いがスタート (H15.8~) 「平塚カトリック教会」で 法律相談会を実施 (H18.11)	サポーターハウス 「ひだまり」がスタート (H22.10~) 野宿者の自立のための一時避難所のような 施設が必要と感じ立ち上げる	食事会、集いの場所で 生活相談会を実施 「平塚カトリック教会」で 法律相談会を実施 (H18.11)	「平塚市市民活動連絡協議会」に参加 (H23.6)	H23.9~ 「ひだまり」でお風呂の利用がスタート 「ひだまり」で食事会の開催 「ひだまり」農園を運営 (H23~H27)	「平塚バプテスト教会」で 炊き出しがスタート (H24.6~)	第1回追悼集会を開催 (H23.9) ※以降毎年開催
行政との連携や動き	毎月末に行政との 話し合いを実施 現状を伝える 市へ要望書を提出 ※野宿者に対する 意識、対応は 希薄であった。	「レントゲン検査」を実施 (8名受診) (H14.11) ※交渉を続ける中で、 要望に対して 市長名で回答するなど 行政の意識に変化が 感じられた。	「市長との学びトーク」 を実施 (H17.11)	市の「ホームレス自立支援取組方針」が 示される (H20)	ポイント: ①生活保護適正実施 ②保険医療の確保 ③就活支援 ④安定した住居の確保	「平塚市ホームレス自立支援懇話会」発足 (H27.3) 平塚パトロール 平塚診療所 済生会平塚病院も参加	行政も巡回を継続実施
社会の主な出来事	既に「貧困ビジネス」が 横行していた 野宿者にピラで 注意を呼びかけ	野宿者が 襲撃される事件が発生 (H14.1)	野宿者をアパートに移すために飼い猫の保護を 「平塚のら猫を減らす会」に依頼	リーマンショックで野宿者増加 国が支援を打ち出す (H19)	パトロール中に 野宿者の遺体発見 (H23.7)	ユースボランティアの 中高生がパトロールに参加 (H24.8) 中学校で学習会を開催	
法制度	「ホームレス自立支援法」が施行 (H14.7)					生活困窮者自立支援法が施行 (H27.4)	

事例集 Vol.1 で紹介した取り組み

環境保全&まちづくり活動

1. 河内川(こうちがわ)あじさいの会

旭地区を流れる河内川は、25年ほど前には生活排水が流れ込み、ゴミが捨てられたドブ川でした。「子どもたちが遊べる川」にしたいと、美化推進委員会を中心に取り組み、河内川あじさいの会に発展します。「河内川あじさいまつり」は、6月の恒例行事となり、多くの人があじさいを楽しむために訪れます。現在は地域の自治会や商店街、行政などと協力しながら活動をしています。



2. 21 浜田川プロムナードプラン推進協議会

浜田川流域は、20年ほど前には雑草や竹藪が伸び、不法投棄物や生ごみなどが散乱した所でした。何とかしたいと「真土桜堤協力会」を平成6年に結成し、流域を整備しソメイヨシノを植樹しました。平成8年から自治会など9団体が参加する「21浜田川プロムナードプラン推進協議会」が堤防の草刈りや桜の手入れに取り組んでいます。平成12年から毎年「浜田川桜まつり」を開催しています。



3. 馬入(ばにゅう)水辺の楽校(がっこう)の会

昭和45年頃の相模川河口には、潮が引くと干潟ができ、チドリなど水鳥の渡来地でした。ここに相模川のヘド口を置く試験池が計画されたため、環境を守ろうと反対運動に立ち上がったのが活動のスタートです。積極的に自然と触れ合える場所を用意したいと平成13年に「馬入水辺の楽校の会」を開校し、子どもから大人まで自然の中で楽しい時間を過ごし、いろいろなことを「学ん」でいます。

※平成29年6月に、NPO法人 暮らし・つながる森里川海を立ち上げ、馬入水辺の楽校の会の活動を含め、地域参加型システムの構築を目指し、人と自然が調和したまちづくり、子どもたちが元気になるまちづくりに取り組んでいます。



町内福祉村&子どもの居場所活動

4. 横内マイタウンスクール

小中学校が週5日制になった平成14年に、週末の子どもたちの居場所づくりのために「横内マイタウンスクール」が発足しました。様々な資格や経験を持った地域の人が運営に携わる「サポーター」として一緒に学ぶスクールです。小中学校PTA、青少年指導員協議会、連合自治会、社会福祉協議会など地域活動の団体代表者で構成される「横内子どもサポートネット協議会」が運営の母体です。



5. やわた子ども村

八幡地区は、地元小学校が無かったため住民の要望で昭和46年に八幡小学校が開校されるなど、子どもたちの見守りを地域で何とかしたいとの思いが強く、「やわた子ども村」を平成17年に設立しました。連合自治会、公民館、PTAなど各種団体との緩やかなつながりを通して支援を受け、大人が知恵を出し合い、子どもたちを中心にした地域づくりに取り組んでいます。



自治会などを含む地域の活動

6. 大神地区地域福祉推進会議

大神地区では、災害時に高齢者や障がい者などの避難誘導を要する要援護者1人に対し複数の方が支援する仕組みが設けられています。大正12年の関東大震災の際に液状化で甚大な被害を受けたことを教訓とし、地域で助け合いが必要だと、地区の各団体が参加する「大神地区地域福祉推進会議」を平成20年設立して、要援護者の把握や支援者の選出などに取り組んでいます。



7. ふじみ野自主防災会

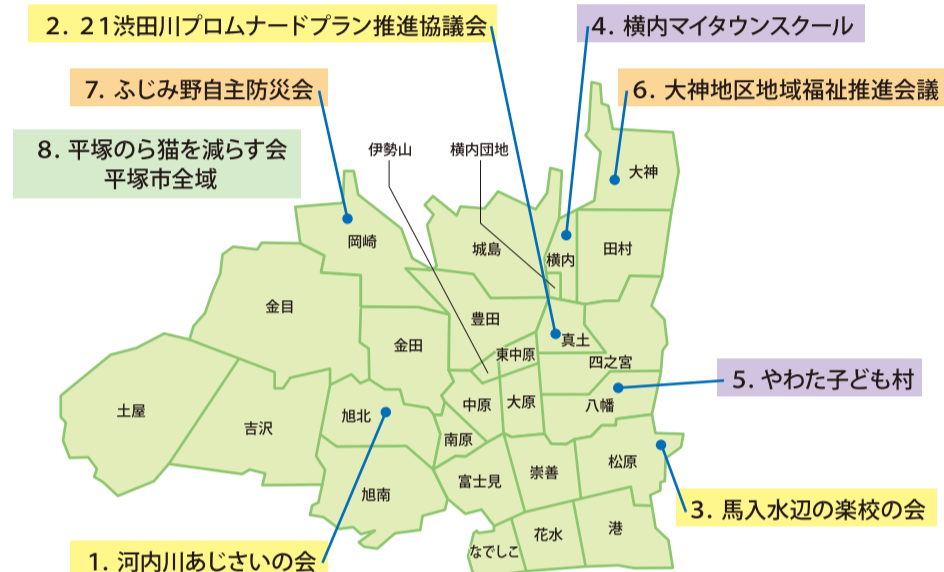
岡崎地区のふじみ野は昭和48年頃に開発された戸建て住宅地です。平成28年1月の時点で高齢化率44.1%になっています。空き巣被害が多かったことから防犯パトロール活動を始め、「災害時には公助等の支援は期待が来ない、自分たちで何とかしなければ」と自治会防災会を補完する「ふじみ野防災ボランティア会」を発足させ、防災訓練や防災マップ、防災ハンドブックを作成し活動中です。



テーマ型市民活動

8. 平塚のら猫を減らす会

のら猫への取り組みを地域でルールを決め運営する「地域猫」とすることで、のら猫を減らす活動に取り組んでいます。のら猫は人間の無責任さが作り出したもので、「のら猫の問題は人間の問題」です。動物が好きだと嫌いな人とのトラブルは深刻化し、住人に大きなストレスが生じています。「のら猫をゼロにするのではなく、トラブルをゼロにすることを目標」に活動しています。



制作者一覧(アイウエオ順) 敬称略

猪俣 位 氏家 真美 打田 照純 大和田 マイ子 小島 成正 坂田 美保子
坂本 著法 清水 浩三 鈴木 奏到 田中 勉 津田 潤 長谷川 正幸
(東海大学生) 小西 孝典 山口 晃拓 (計14名)

ひらつか元気地域づくり事例集 Vol.2

作成・発行：NPO法人 湘南NPOサポートセンター

記事・取材協力：各事例紹介団体 (7団体)

注) 本事例集は、平成29年度「ひらつか地域づくり市民大学」のテキストにも使用しています。

事例団体への直接のお問い合わせはご遠慮ください。

平成29年7月発行

※テキスト・画像の無断転載・複製を固く禁じます。



この事例集はプリチストンちょボラ募金の助成により発行しました。

ひらつか元気地域づくり事例集
Vol.2